

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

英語

事前の家庭学習で知りたい意欲を湧かせ、
授業での主体的な学び合いに導く

山梨県立青洲高校 せいしゅうこう
飯室雄大 いむろたけひろ

本時の概要

【対象／教科／科目】1年生／英語／英語表現1 【分野・単元】Lesson3 My Hometown (本時は、全3時間のうちの1時間目。P.49に単元の指導計画を掲載)

【育成を目指す資質・能力】知識・技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性

【学習内容】各自が事前の家庭学習で、時制の文構造を分析したり、例文を考えたりするワークシートに取り組み、本時では、ワークシートを使ってグループ内で各自が考えを発表し、時制の理解を深める学び合いを行い、最後にグループの代表者が発表して、各グループでの気づきや学びを共有した。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

10:40 本時の目標と学習内容の説明



まず、生徒はくじを引いて席順を決めた。毎回異なる生徒同士で学び合いができるようにするための、飯室先生の工夫だ。生徒が席に着くと、飯室先生は、本時の目標が「時制の表現の違いを理解し、使い分けられるようになること」であることを示し、学習内容と流れを英語で説明した。

10:58 グループでの学び合い



全員の発表が終わったのを見計らい、飯室先生が「分からなかったことを共有して、もやもやを解消しよう」と呼びかけると、各グループで学び合いが始まった。飯室先生は、「時制は、イラストやジェスチャーで説明すると分かりやすいかも」と、説明のヒントを出した。

いむろ・たけひろ 教職歴12年。同校に赴任して1年目。英語科。企業勤務を経て、教職に就く。文部科学省によるアメリカ研修などで、指導や評価に関する知見を深め、現在の授業スタイルを確立した。

学校概要

◎山梨県立市川高校、同峡南高校、同増穂商業高校を統合し、県内初の単位制・総合制高校として開校。校訓に「進取、敬愛、共創」を掲げる。各科の専門性を生かし、生徒の希望進路に応じた知識・技能の習得を支え、学科横断の選択科目も設定する。学校設定科目「峡南地域学」と「総合的な探究の時間」では、学科の垣根を超え、地域の防災や歴史、文化、産業、自然などについて探究する「青洲学」を実施。

◎設立 2020(令和2)年

◎形態 全日制／普通科・工業科・商業科／共学

◎生徒数 1学年約270人

◎2021年度進路実績 2020年度に開校したため、卒業生はまだいない。



10:48 「時制の違い」をグループ内で発表



対
深

グループワークに移り、家庭学習で取り組んだワークシートを基に、1人1分間でそれぞれ異なる設問に関する文構造の説明やオリジナル例文などを発表した。飯室先生は、「過去形と過去進行形の違いは、どう説明できる？」などと、思考や説明のポイントを提示した。

10:44 ウォームアップ



対

「Do you like your hometown and why?」と、飯室先生が問いかけ、まずは先生自身の故郷への思いを英語で話した後、同じ話題でペアワークを行わせた。その間、飯室先生は、「アイコンタクトやジェスチャーを使って」などと、声をかけた。終了後、数人の生徒が話した内容を発表した。

11:05 代表者による「文法プレゼン」



主
深

各グループの代表者が約1分間でプレゼンテーションを行った。飯室先生は、発表内容に関連させて、「どこを変えると過去形になる?」「現在形と進行形の違いは?」など、時制を使い分けるためのヒントを投げかけたり、適宜補足説明をしたりして、時制の本質への理解を深めさせた。

11:00 発表の準備



グループごとに、現在形・現在進行形・過去形・過去進行形・状態動詞の項目が割り振られ、グループの代表者は、ワークシートで取り組んだ内容を基に、発表のための説明を板書した。その間、飯室先生は、生徒に質問したり、ワークシートをチェックしたりしながら、生徒の理解度を確認した。

●私が目指す授業

努力と成功体験を積み重ね、
英語を使う自信と勇気を育む

私の理想は、生徒が教室外でも英語を使いたくなり、学びが広がっていくことです。主体的・対話的で深い学びを中心とした授業を通して、生徒が小さな努力と成功体験を積み重ねられるようにし、失敗を恐れずに英語を使うようにし、失敗を恐れず育みながら、実践的な英語運用能力を身につけさせることに重点を置いています。そこで、本時の「文法プレゼン」以外の、「英語表現」や「コミュニケーション英語」などの授業はすべて、オール・イングリッシュで行っています。それにより、A・L・Tの授業も含め、すべての英語の授業が有機的に連動するようにしています。

授業づくりでは、文部科学省によるアメリカ研修で学んだ「スチューデント・センタード・ラーニング」を意識しています。それは、授業で最も多く発言するのは教師ではなく、生徒であること、生徒の意見を授業に取り入れることという、2つの考え方です。私もそれを基に、授業中の生徒の様子を徹底的に観察

し、ファシリテーターとして生徒のパフォーマンスを肯定して意欲を引き出したり、生徒個々の考えをつなげたりする指導を心がけています。

●私の発問・課題設定の観点

グループやクラス、学年全体で生徒主体の学び合いを生み出す

文法は、英語学習の基礎として重要ですが、生徒が学習をおろそかにしがちなことに課題を感じていました。そこで、文法学習の必然性を感じさせる方法として考え出したのが、本時で行った「文法プレゼン」です。それは、生徒が家庭学習で、私が作成したワークシートに沿って文法について調べ、自分なりに理解した上でオリジナルの例文を作り、授業ではそれを基にグループで学び合い、理解したことや気づきを最後にクラス全体で発表するというものです。

本時では、現在形など5つの時制について、「時制の表現の違いを理解し、使い分けられるようになること」を目標としました。グループワークでは、ほかの生徒が理解できるように説明することを求めています。生徒は自分なりに学習して授業に臨みますが、理解が不十分なところも

あります。授業では、最初にグループ内でそれぞれが理解した内容を発表し合い、それでも理解できないことを話し合います。かつての文法の授業を「のどが渴いているように水を飲まされているように」と例えた生徒が、「文法プレゼン」について、「のどが渴き切った時に仲間や先生から水をもらえる」と言うほど、皆、ほかの生徒の話を意欲的に聞きます。また、他者に説明することで理解を深める姿も見られます。

最後に、グループでの学びを教室全体に広げるため、グループの代表者に発表させます。発表の中で生徒に必ず押さえてほしい事項は、私が発表者を褒めながら強調したり、解説したりします。発表に補足や修正を要する場合は、私が解説するのはなく、「別の考え方をしたグループはある？」と生徒に問いかけます。そこでも、生徒同士の学び合いで気づきが生まれ、理解が深まるようにしています。また、ワークシートは、学年全体での学び合いのきっかけとなるよう、参考にしてほしいものを廊下に掲示しています(写真)。

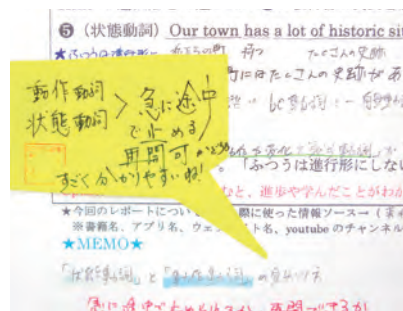
なお、本単元は2時間連続で授業を行い、次時には、本時に扱った時制の活用を主眼に置いたライティング



グを行いました。

私の授業では、1年間で教科書を2周します。1周目では、生徒同士の学び合いと「文法プレゼン」により、文法事項の理解を深め、理解したばかりの文法を活用したライティングを行うことで主体的な学びを演出します(本単元の1・2時間目)。数か月後に行う2周目では、1周目と同じテーマでライティングを行うことで、前回からの英語力の成長を実感させるようにしています(本単元の3時間目)。また、GTECを

写真 他の生徒の見本となるワークシートは、「Good examples」として、飯室先生が参考にしてほしい点を書いた付箋紙とともに、廊下に掲示。学年全体で共有できるようにしている。授業の前後には生徒が掲示に集まり、他のクラスの生徒のワークシートをじっくり見ている。



年2回実施し、英語力を客観的指標で評価するとともに、生徒に成長実感を感じ、自信をつけさせることをねらっています。

●成果と展望

生徒が前向きに授業に臨み、英語を使う場を求めるように

前任校では、「文法プレゼン」を取り入れてから、生徒の英語力が着実に伸び、昨年度の大学入学共通テストでは、校内平均点がセンター試

VIEWn-expressでは、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で
紹介しています。
生徒の学び合いや、先生の
声かけの様子を視聴できます。
ぜひ、ご覧ください。

VIEW n-express

験の時よりも高くなりました。学力
下位層の成績も向上し、全体的に底
上げされました。

また、かつては推薦入試などで早
期に進路が決定すると、その後の授
業に集中できない生徒もいました
が、今の授業スタイルを取り入れて
から、生徒の集中力は卒業まで持続
するようになりました。それは、個
ではなく、集団での学び合いの大き
な効能と考えています。

何よりうれしいのは、英語が好き
になり、国際交流の活動などに参加
する生徒が増えていることです。積
極的に英語を使う姿が見られるよう
になり、英語力に加え、英語を使おう
とする自信と勇気が確かに育ってい
ることを感じます。これからも、英
語を使う場を増やして、外に学びを
つなげていきたいと考えています。

単元の指導計画

【教科・科目】英語・英語表現I 【分野・単元】Lesson3 My Hometown 【テーマ・作品】自分の住んでいる町や故郷について語り合おう 【設定時数】全3時間（本時は1時間目） 【単元目標】学んだ知識や技能を用いてテーマに沿った自分の意見を表現し、それらの共有を通じて英語の質を向上させることができる。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> Warm-up "Do you like your hometown and why?" 文法プレゼン Showcase check homework 	<ul style="list-style-type: none"> 知識や技能を自ら主体的に学ぶことができる。 学んだ知識を自分の言葉で説明することができる。 学んだ知識を使って問題を解くことができる。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> Warm-Up でスピーキングのペアワークと Showcase を行う。 事前にワークシートを使って調べ、理解した内容を、生徒各自が作った例文を用いながらグループ内で説明する。 分からない点は、グループ内で学び合う。 グループの代表者が前に出て、グループで学んだことを発表する。 	<p>【主体的な学び】数多くある情報源の中から、必要な情報を探し、自分に合うものを取捨選択し、知識として取り入れるように促す。</p> <p>【対話的な学び】グループワークや発表を通じて、生徒同士の刺激を促し、文法知識の獲得に関しても多様なアプローチがあることを理解させる。</p> <p>【深い学び】他者との共有や発表を通じて、事前の家庭学習で得た知識をさらに深化させ、より確かなもののできるように促し、授業の前と後での進歩を実感させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業での活動 ワークシートの記入内容 定期考査
2	<ul style="list-style-type: none"> Warm-up Get More Informed "Listen Up" Write on your own (1回目) Showcase 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んだ知識や技能を用いて、間違いを恐れずに英語を使い、自分の考えを表現することができる。 表現した内容について、互いに意見を交わすことができる。 他者との共有を通じて、自分の間違いを発見したり、他者の表現を取り入れたりと、英語の質を向上させることができる。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> Warm-Up で教科書のリスニング問題を解く。 テーマに沿った英作文を書く。 意識するポイントを変えて、異なる相手と英作文の共有を4回行う。 指名された生徒は、前に出て発表する。 	<p>【主体的な学び】与えられたテーマについて、自分の考えを持ち、表現できるように、適切に補助する。</p> <p>【対話的な学び】他者との共有を通じて、自分の意見や表現方法と他者のものを比較し、刺激を受け、必要に応じて表現を自己評価したり、改善したりすることができるように促す。</p> <p>【深い学び】自己評価や自身での改善を通して、1時間の授業の中でも表現技術の向上を実感できるように促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業での活動 ノートの記入内容 定期考査
3	<p>(教科書の2周目：冬ごろを想定)</p> <ul style="list-style-type: none"> Warm-up: Get More Informed "Read Up" Check and Update the sentence Write on your own (2回目) Showcase 	<ul style="list-style-type: none"> 成長を実感し、自信を持つことができる。 前回よりも増えた知識や技能を用いて、以前書いた英文を修正すること、または質を向上させることができる。 前回よりも質の高い共有をすることができる。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> Warm-Up で教科書のリーディング問題を解く。 数か月前の2時間目に書いた自分の英作文を読み返し、ミスを訂正し、質を向上させる。 2時間目と同じテーマで英作文を書く。 意識するポイントを変えて、異なる相手と英作文の共有を5回行う。 指名された生徒は、前に出て発表する。 	<p>【主体的な学び】数か月前に書いた英作文の自己評価を通じて、成長を実感し、今後の学習への動機づけとなるように促す。</p> <p>【対話的な学び】他者との共有を通じて、自分の意見や表現方法と他者のものを比較し、刺激を受け、必要に応じて表現を自己評価したり、改善したりすることができるように促す。</p> <p>【深い学び】数か月前に書いた英作文を自己評価し、前回よりも質の高い表現ができるように促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業での活動 ノートの記入内容 定期考査

※飯室先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。